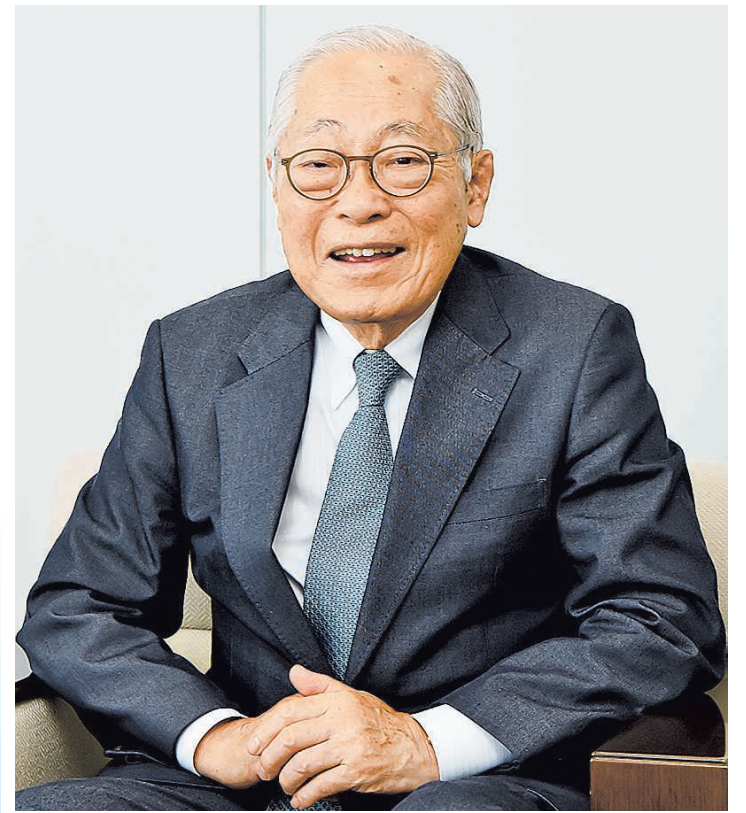


ハンドルの重みは命の重み

車を「凶器」にさせない



すえなが・のりひこ 1946年生まれ。甲南大学経営学部卒業後、トヨタ自動車販売（現トヨタ自動車）勤務。岡山トヨペット社長などを経て、S UENAGA Group 8 社会長。2018年から岡山県交通安全協会会長。

交通事故・飲酒運転ゼロに

交通遺児育英会

岡山県交通安全協会

石橋健一会長

末長範彦会長

公益財団法人交通遺児育英会（東京）は1969年の設立以来、保護者が道路上の交通事故により亡くなったり、重度の後遺障害を負ったりしたため経済的に困窮する子どもたち（交通遺児）に、学資支援などを通じ、成長を応援してきました。また、交通遺児を生まないために交通事故・飲酒運転ゼロを目指し、交通安全推進運動への協賛・協力事業も展開しています。

岡山県では、2025年までに「交通事故死者数50人以下（年間）」を目指しています。23年には49人と目標を達成しましたが、人口10万人当たりの交通事故死者数は2.63人で、全国平均の2.14人より高い水準にあります。交通遺児育英会の石橋健一会長と一般財団法人岡山県交通安全協会の末長範彦会長に、交通安全意識を高めるための取り組みなどについて聞きました。

多様な支援で成長促す



いしばし・けんいち 1942年生まれ。北海道大学工学部卒業後、日新製鋼入社。呉製鉄所エネルギー技術課、本社人事部などを経て、96年交通遺児育英会会出向。事務局長、専務理事、理事長を歴任し2023年から現職。

「せめて高校には」保護者の声が契機

交通遺児育英会と岡山県交通安全協会、それぞれの設立の経緯を教えてください。

石橋 交通遺児育英会設立は1969年5月。高度経済成長期、モータリゼーション（車社会化）が進んだことにより、交通事故の被害者数が急増した時期でした。当時は全国で年間1万6千人を超える交通事故死者数で、遺族である子どもの母親たちから「せめて子どもを高校だけは行かせてあげたい」という声が増え、68年度末に国会で修学支援の結果、68年度末に国会で修学支援の組織づくりが閣議決定され、それから半年もしないうちに設立となりました。その後、2011年4月に公益財団法人に移行しました。

末長 自動車の所有者が膨大に増えた1948年、岡山県交通安全協会は設立されました。その後も交通事故は増加の一途をたどり、64年に財団法人岡山自動車学校と同協会が合併し、財団法人化。活動に賛同する個人会員、法人・企業等の団体会員に協力いただき、岡山の交通安全実現を目指しています。

活動内容は？

石橋 大きく分けて五つの事業に取り組んでいます。「奨学金の貸与（一部給付）」「修学支援金給付」「奨学生の指導と育成」「学生寮の運営」「交通安全の推進」です。メインは奨学金事業。無利子貸与型の奨学金からスタートし、社会に出てからの返還負担を軽減させるため、給付型も増やしています。2020年度からは専門学校生・大学生以上に月2万円、23年度からは高校生に月1万円の給付型奨学金を始めました。また現在、1万1千件が奨学金を返還していますが、生活保護や住民税非課税世帯の証明があれば免除する制度もあり、今後拡大していきたいです。

末長 「子どもと高齢者の交通事故防止」「自転車の交通事故防止と安全利用」「二輪車の交通事故防止」「飲酒運転等悪質・危険運転を根絶」の4点を柱に、啓発を行っています。具体的には県から業務委託を受け、免許証の更新講習や街頭での広報活動、反射材の購入と配布などを実施。警察・行政の手が届きにくいところを草の根でフォローしています。

学生寮や家賃補助

奨学生の負担軽減

奨学金以外の支援は？

石橋 20〜22年までの新型コロナウイルス感染症拡大に対応する緊急支援策として、5回に分けて一人最大60万円の給付を行いました。また奨学生は修学するにあたり、学費以外にも負担がありますよね。東京と大阪には地方出身の奨学生向け学生寮「心塾」があります。建物が老朽化した東京寮は、新たに建て替え、より快適な学習環境を整備して今年

4月にオープンしました。また賃貸住居から通学する奨学生には月1万5千円の家賃補助があるほか、上級学校（大学や専門学校）受験費用や自動車運転免許取得費の補助も用意しています。また毎年開催している、交通遺児家庭の交流の場「高校奨学生と保護者のつどい」の懇談会でも上がった保護者の要望に応え、本年度から英語検定試験（英検、TOEICなど）費用の給付と、大学・専修学校などの予約申込者で浪人した人の進学支援金貸与も追加しました。今後も、臨機応変に増設していきます。

石橋 14年頃、広島タクシー会社から社員講習での講演依頼が来たのを皮切りに、「心塾」塾生や保護者の方に、それぞれの立場で事故の体験をお話ししてもらって無料出張講演を行っています。現在は運送会社の社員研修会や自動車教習所の先生方を対象に、年間30件ほど実施しています。

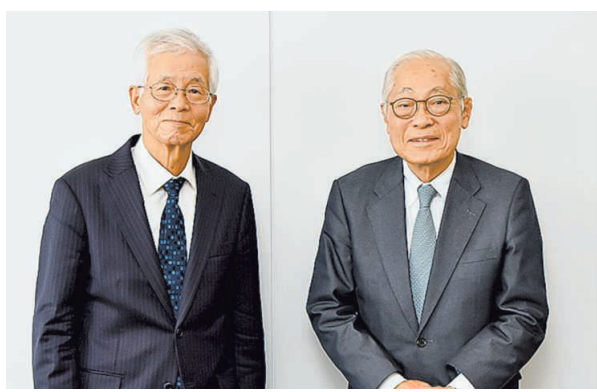
高齢者の事故防ぎ

死者数50人以下に

23年、岡山県の交通事故死者数は前年（74人）より大幅に減り49人。これは統計のある1948年以降2番目に少ない数字です。何が影響したと考えますか？

末長 法整備や関係機関・団体の働きかけなどによる意識の高まり、また車にも人間の認知能力を補助する先進技術が次々搭載されています。プラスアルファで医療

石橋 自身が運転中、子どもや自転車のそばを通るとき気を付けているのは、「対向車が来ている中で追い越さない」ということ。過ぎるまで待つ。また対向車がなくても、子どもは飛び出す前提、自転車は倒れる前提で、接触することのない幅を取って追い越す。そして何より、スピードを出さず、スピードがある程度抑えられていれば、何かあってもその直前で止めることができます。



石橋 岡山県内の幼稚園や小学校に出向き、交通安全教室を行っています。模擬信号機や自転車を走らせて、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方を指導します。

末長 6年8月、飲酒運転により福岡県で幼児3人が死亡する重大事故が起きました。当然、社会問題になり、07年には飲酒運転の厳罰化、11年には行政処分の強化などが施され、岡山県でも同条例を施行しました。しかし、飲酒運転事故は全国で後を絶ちません。岡山県内では今年4月、飲酒運転のダンパーが対向車線をはみ出し軽自動車に衝突、28歳の女性が亡くなる痛ましい事故がありました。警察や行政も飲酒運転根絶に向け働きかけていますが、協会としても独自に啓発を行っています。

飲酒運転根絶へ常に安全意識を

岡山県は13年、「飲酒運転を許さない社会環境づくり条例」を施行しています。

末長 テレビや新聞などの広告で飲酒運転の危険性を訴えるとともに、酒類を提供する飲食店と連携し、飲み会で酒を飲まない人を決めて運転手を必ず確保する「ハンドルキーパー運動」を展開しています。また私は自動車販売会社・岡山トヨペットの会長も務めており、飲酒運転の恐ろしさを伝える独自の啓発動画も作成しました。車という、本来安全・快適な乗り物を「凶器」に変えさせない。そういった意識を常に持っています。

石橋 自身が運転中、子どもや自転車のそばを通るとき気を付けているのは、「対向車が来ている中で追い越さない」ということ。過ぎるまで待つ。また対向車がなくても、子どもは飛び出す前提、自転車は倒れる前提で、接触することのない幅を取って追い越す。そして何より、スピードを出さず、スピードがある程度抑えられていれば、何かあってもその直前で止めることができます。

交通遺児育英会は、飲酒運転についてどう考えますか？

石橋 運転時に必要な能力は、「認知・判断・操作」。飲酒はこの働きを鈍らせます。それを全てドライバーがはつきり自覚しないとダメです。交通遺児の保護者の方が、講演で話してくれた言葉があります。「ハンドルの重みは命の重み」。文字通り、ハンドルを握るといことは、命の重さを握っているということ。運転をしながら、常にその意識を頭から離さないのが一番大切なことです。

車いすの父に「楽しい」施設造る

岡山大学大学院1年 M・Yさん

高校1年の時、地元・沖縄で父が交通事故に遭いました。一命は取り留めましたが脊髄に障害が残り、車いす生活に。ちょうど兄が高校3年で進学を控えていたこともあり、インターネットで調べた交通遺児育英会の奨学金支援を受けることに決めました。

奨学金利用者の声

兄育英会は家賃や自動車運転免許取得費用の補助も充実しており、とても助かりました。幼い頃からものづくりが好きでしたが、建築の道に進みたいと思ったのは父の事故がきっかけ。元々アクティブだった父は、車いすの不便から外出しなくなっていました。日本ではまだまだバリアフリーが進んでおらず、商業施設や映画館など、もっと実用的な整備ができるはず。卒業後はゼネコンに入社し、現場監督として経験を積みみたいです。そしていつか父をはじめ、車いすの人に「外出して楽しいな」と思ってもらえる施設を造るのが夢です。

